

# 愛好者の高齢化への対応についてのアンケート調査報告

2017.8.19

2017.9.15 改

普及特別委員会

## 1. アンケート調査結果

2017年7月10日～8月10日にかけて、S協加盟全クラブを対象に「愛好者の高齢化対応」についてアンケート調査を実施致しました。回答クラブ数は337団体で、回答率は表-1に示すとおりです。

表-1 アンケート回答率

支部	全体	北海道	東北	関東	中部	近畿	中四国	九州
回答クラブ数	337	21	24	159	41	37	31	24
調査時の 加盟クラブ数	534	34	38	262	74	57	41	28
回答率%	63	62	63	61	55	65	76	86

(2017年9月15日現在)

表-2にアンケートの集計結果としての統括支部別の70歳以上の愛好者の状況を示します。

集計支部	%	合計	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国四国	九州
<b>在席状況</b>									
報告クラブでの会員数(人数)	66%	9552	385	563	5092	1178	1262	556	516
70歳以上人数	49%	4666	211	319	2539	460	629	220	288
<b>会員の年齢分布</b>									
69歳までの人数	51%	4886	174	244	2553	718	633	336	228
70歳から79歳までの人数	43%	4088	176	281	2261	408	537	187	238
80歳以上人数	6%	578	35	38	278	52	92	33	50
<b>70歳以上のSDキャリア</b>									
10年以上	59%	2769	164	196	1465	294	361	106	183
5年から9年	22%	1046	34	67	605	82	170	45	43
5年未満	18%	851	13	56	469	84	98	69	62
<b>70歳以上のプログラム</b>									
B	4%	177	0	3	95	4	44	9	22
MS	26%	1221	25	113	622	139	165	77	80
P以上	70%	3268	186	203	1822	317	420	134	186
<b>70歳以上の出席状況</b>									
ほぼ毎回	83%	3877	204	284	2062	378	498	195	256
半分以上	11%	522	4	25	331	53	64	15	30
半部以下	6%	267	3	10	146	29	67	10	2
<b>70歳以上のパーティー参加状況</b>									
よく参加している	25%	1158	66	67	666	100	146	55	58
時々参加している	38%	1775	84	79	1009	163	188	109	143
全く参加していない	37%	1733	61	173	864	197	295	56	87
<b>配慮したプログラム有無</b>									
①毎回ある	8%	25	1	2	7	2	3	5	5
②時々ある	6%	19	1	1	8	1	3	2	3
③ない	85%	258	15	19	122	36	28	20	18

表-2 統括支部別70歳以上の愛好者の状況

(2017年8月10日現在のデータに基づき作表)

支部によって、高齢化の状況は一様ではありませんが、愛好者のほぼ49%は70歳以上

であり、内 6%は既に 80 歳以上の年齢構成となっています。70 歳以上のキャリアを見ると 59%が 10 年以上でした。また、5 年未満が 18%となっており、70 歳前後から始められた愛好者の数も多いことが判ります。

ダンスプログラムは、キャリアが 10 年以上の比率を上回る 70%がプラス以上を踊っていることが判ります。また、パーティー参加状況も、よく参加している 25%と時々参加している 38%を合わせると 63%がパーティー参加で楽しんでいることが判ります。

また、現時点では 70 歳の会員は大多数が 10 年以上および 5 年から 9 年のキャリアを有しており、例会においては、特に高齢者の配慮したプログラムを準備していないクラブが 85%と多数になっていますが、14%のクラブでは何らかの配慮がされていることが判ります。

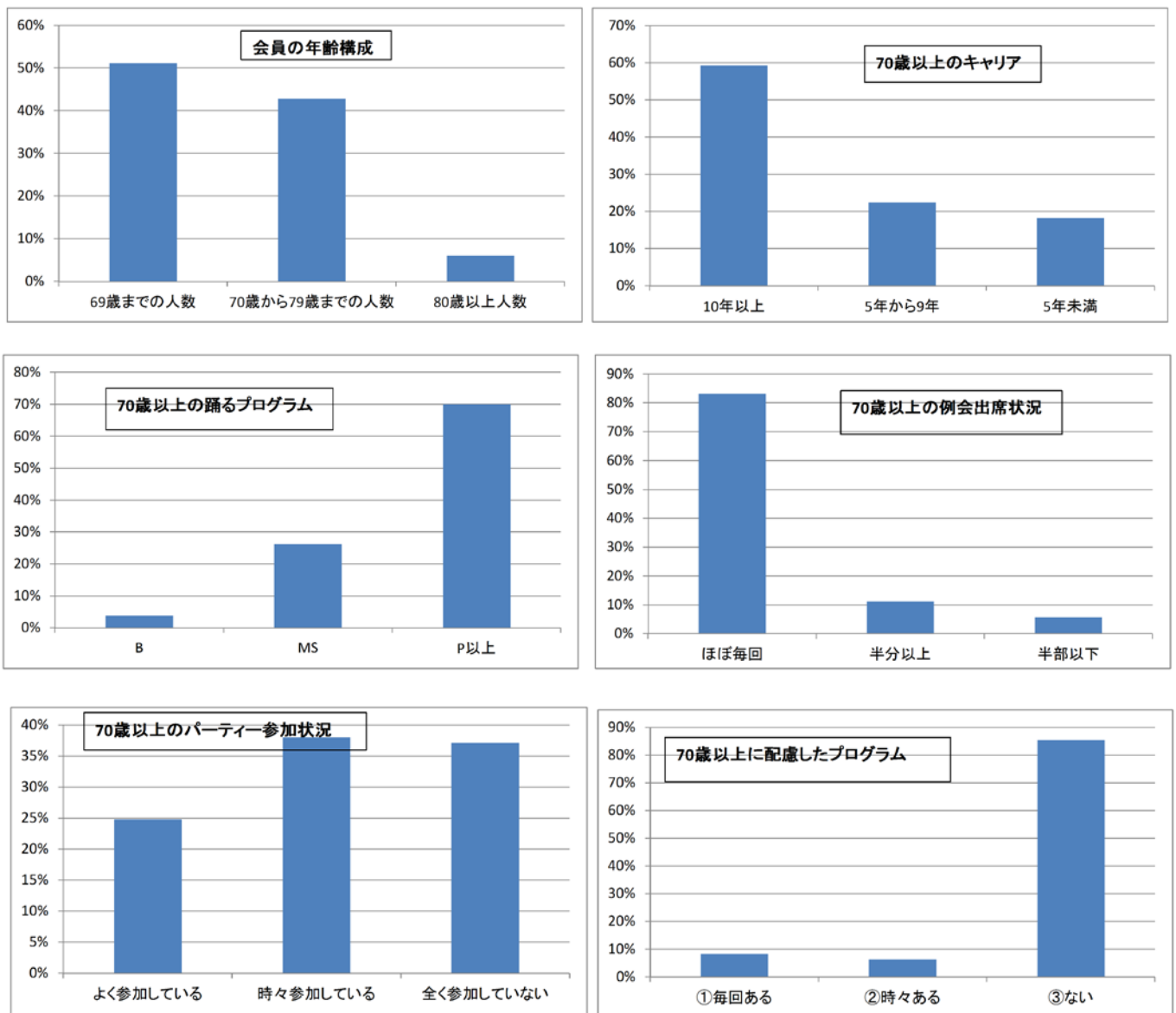


図-1 70 歳以上の愛好者の状況

自由記述で次のような回答がありました。(類似の回答はまとめて整理してあります。)

- 70 歳以上の会員はスクエアダンスを継続していくためにはどのような事を望んでいますか。
  - ・夜例会の参加が難しくなり、昼例会を希望する人が増え始めた。

- ・例会だけの活動で満足し、特に、外のパーティーへの参加は望まない。
  - ・コスチュームの着用について、様々な感想が聞かれる。
  - ・易しくても楽しめるダンスを望んでいる人がいる（難しくなくてよい）。
- 70歳以上の会員が楽しめるような工夫を何かしていますか。
    - ・ダンスだけでなく、その後のアフターも楽しみな人への対応。
    - ・年齢ではなく、キャリア（経験年数）で工夫が必要。
  - 今後、70歳以上の会員への対応について考えていることが何かありますか。
    - ・昨年から夜例会に加えて、平日の昼間に例会を開催している。
    - ・昼例会と同じ時間帯で体験教室を開催したところ、多くの受講生が初心者講習会に参加してくれた。
    - ・ビギナー教室は、年齢制限が必要ではないかと考えている。
    - ・入会してくる人は高齢者ばかりで、クラブの存続が心配。
    - ・パーティーは体力的に午前中だけという人が多い。
    - ・70歳代で始めた人は、三ヶ月程度で退会してしまう人がいる。
    - ・レベルの違いに悩んでいる。
    - ・70歳以上の会員は、ほとんどプラス以上に取り組んでいて、踊れなくなるまでの短い時間がビギナーコースを始めとする普及に多く割かれることへの不満が時々聞かれる。
    - ・悪天候時には例会を中止する。
    - ・難聴の方への対応が必要となる。
    - ・年齢ではなく、キャリア（経験年数）で工夫が必要。
    - ・コミュニティー25、ベーシック等を中心としたパーティーがあると良い。

## 2. 年齢構成からの考察

2005年に実施した全S協会員を対象にした調査結果によると、愛好者の年齢構成は60歳以上が45%であり、内6%が70歳以上の年齢構成でした。

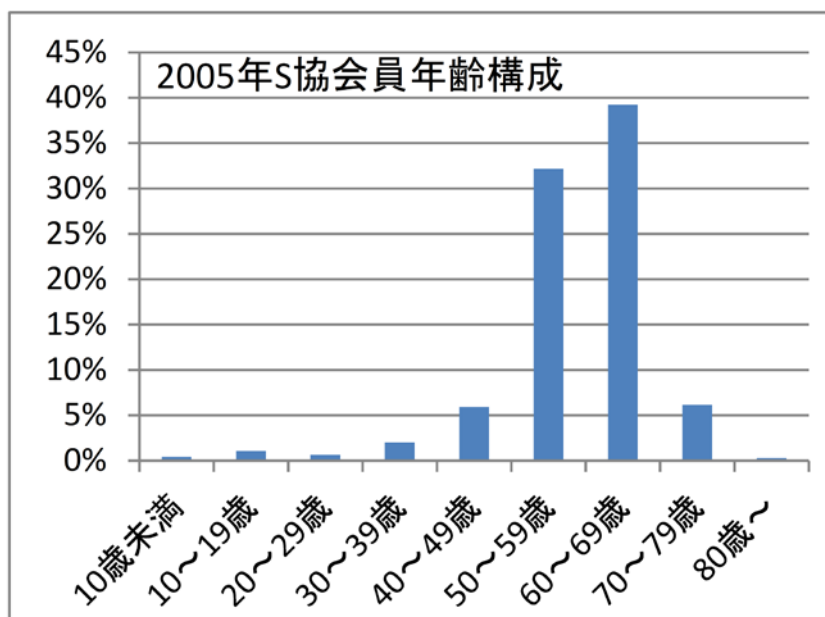


図-2 2005年調査結果による愛好者の年齢構成

2005年から12年が経過した現時点での愛好者の年齢構成は、70歳以上が49%であり、内6%は80歳以上の年齢構成となっています。また、70歳以上のキャリアを見ると59%が10年以上であるところから判断すると、明らかに愛好者の年齢構成は時間経過とともに高齢化にシフトしていることが判ります。そして、今回の調査データに基づいて今後起こる事象を予測すると、今後10年間の会員の年齢構成の推移は、現在、会員構成の49%を占める70歳以上の会員が確実に80歳以上となります。即ち、高齢者が踊れるような環境が整備できず、また、60歳代以下の新しい愛好者を増やすことができなければ、S協会が今後10年間で確実に減少し、併せて、普及に大きな影響力を發揮してきた70代のコーラーもリタイアすることが予測されます。

### 3. 調査結果から見えてくる重点課題

今回の調査で70歳以上の愛好者が急速に増加しており、それに対する特別の配慮が少ない実態が明らかとなりましたが、この結果から導き出される協会としての高齢者対策の重点課題は、高齢の愛好者（体力的、時間的にハンディを持つ者）がスクエアダンスを継続して楽しめる環境を整えること、及び高齢者が初心者として楽しくスクエアダンスを踊り始めることができる場を準備することといえるでしょう。会員数を確保することが、普及を安定的・継続的に実施する協会運営に不可欠と言えます。

いかなる状況下においてもスクエアダンス界を牽引していくには、協会が安定的・継続的に運営ができる基盤が必要です。協会運営は会費収入に依存している状況であり、今後高齢化による会員の減少があるとすれば、それは深刻な問題です。高齢化に伴う対策は、次期中期計画の中で取り組むべき最重要課題になることでしょう。

S協が創設された1980年から2005年に至る25年の間は一貫して成長期で、創設当初2000人程の会員は、当時「会員1万人運動」の普及活動が功を奏して1万4千人に届くまでとなりました。しかし、2005年以降会員の伸びは鈍化し、2013年からは1万5千人を前に足踏み状態となりました。

今回の調査結果を受けて、S協は10年後を見据えた基本方針を掲げて取り組んで行くことが必要と考えます。調査結果から見えてくる重点課題を以下に列挙します。

- 会員（愛好者）数を増やすための体験者10万人運動

体験者10万人を目指すことは、引き続き重要だと思われます。10万人にいかに近づけるか、その対応策を考えていくことが必要です。体験会・体験教室の開催の推進に加えて、各クラブの初心者講習会の実施をいかに進めるかも大事です。高齢者も参加しやすい事業にし、事業後の活動に配慮するとともに、中年層、若年層や学校における体験者増を図る努力が必要になります。

- 次世代への継続方策の更なる強化

愛好者増、会員増という課題に対して、次世代育成小委員会では次の世代を担っていく青年愛好者の育成に取り組んでいます。この取り組みを更に強化していくため、将来のスクエアダンス界を託す青年（少年を含む）の育成に加え、近くスクエアダンス界を担う中堅世代（リーダー）の育成のタスクを設けるなど、青年・中堅層の育成を推進することが大事です。

また、新しい人材を、専門委員会のメンバーや統括支部の役員あるいはコンベンションの実行委員等に充てることなどを通して、次世代を担う人材を育成し、活躍の場

を準備していくことも考えられます。

- 70 歳代から始めた愛好者の組織的な支援

現在は 70 歳代の愛好者の大多数は 70 歳以前に始められた方が多く、またダンスプログラムもプラス以上が 70%の技量をもちクラブとしても特別な配慮がされていない実情となっていますが、一方では、70 歳以上の愛好者の 18%が 5 年未満のキャリアで、パーティーには 37%の方が全く参加していない状況にあります。これら方々への支援は各クラブにお任せすることだけでは難しいと考えられますので、協会の事業として施策を考え、各統括支部（または県連）が支援していくことが適当と考えられます。

#### 4. おわりに

今回の調査結果を受けて、次年度からの次期中期計画において、高齢化への対応など協会として取り組む基本方針の再確認、再構築を行い、各組織、統括支部と連携しながら S 協が一体となって施策を考え、取り組むことが必要と考えます。今後の S 協の会員のあり方、地域へのスクエアダンスの普及、人材と資金の確保など、様々な観点から皆様と共に考えながら、10 年後を見据えた次期中期行動計画を策定し、実行に移して参りますので、よろしく願いいたします。